

授業改善書

科目名	保育内容「環境Ⅰ」
担当者	伊藤能之

授業の概要

保育における環境の意味について学ぶ。環境を通した保育、遊びを通した保育の意味について理解する。教材研究として物的環境、人的環境、社会的環境について考え、環境設定の意味を指導案指導に結び付けて学ぶことで、ねらいと内容についても理解し、環境を題材として指導案指導の作成に挑む。また、その過程を模擬保育にて実践し、保育者の思い、子どもの気持ちについてより具体的に指導する。

授業の問題点

保育内容「環境」という授業における「環境」という言葉は非常に日常よく使われる。学生の中にも、社会一般の環境問題に興味のある学生もいる。そのような学生の環境に対する関心を授業内容としての「環境」に結び付けたい。たとえば、ゴミ問題をゴミの分別という視点から、子どもたちにどう伝えるか、というような課題につなげていきたいと考える。社会一般で用いられる環境という概念と連動させつつ、保育内容としての環境の概念を正確に伝えたいと思う。

学生の授業満足度

授業は3コマ担当させていただいているが、一つが3点台。あと2つが4点台であった。担当教員としては、いずれも同一内容にて授業を行っているつもりであるが、このよう差が生じた原因について考えていきたいと思う。

授業改善の課題と方策

「環境」というフレーズが社会の中で、大きな意味を持つようになっているので、地球環境のような社会問題との関連づけも必要であると考え。たとえば、ゴミ問題と幼児の意識、地球温暖化の考え方などをどのように幼児に伝えるか、等。
このような授業展開により学生の興味を高めていく必要がある。

その他

学生の授業態度はおおむね良い。
発言量もけっこう多い。ただ、大人しい学生もいるので、そのような学生にも発言する機会を設けたい。